



第490回機振協セミナー

令和7年度 地域・中小企業デジタル研究会報告

主催：(一財)機械振興協会経済研究所



地域・中小企業のデジタル活用、 先端技術活用の支援

2025年

12.09

13:30~15:00

●オンライン開催 (Zoom 配信)

事前申込制 (先着100名、参加費無料)

●お申込み方法

URL: <https://forms.gle/MYE5wLFRo58rf1u77>

もしくは、下記のQRコードのフォームより、**12月4日(木)**までにお申込みください。



急速なデジタル化、様々な先端技術の開発が続くなか、特に地域の中小企業がそうした流れを適切に読み取り、自らの強みとして取り入れていくことは簡単なことではない。そこで、地域・中小企業向けの様々な支援策が提供されている。今回は、国の機関である国立研究開発法人産業技術総合研究所の地域・中小企業支援の取組について紹介をする。一つは、“ブレインマッピング”と呼ばれる技法を用いることで、地域・中小企業がデジタル活用の円滑な推進が期待されることについて、具体的な事例と共に紹介する。2つ目は、福井県の北陸デジタルものづくりセンターで実施されている地域における先進的な産業・研究連携の取組事例を紹介する。

講演

1. 「違いを楽しみ活かしながら、人や組織に変化を起こす仕組みと仕掛け」

国立研究開発法人産業技術総合研究所
製造基盤技術研究部門 招へい研究員 手塚明氏

2. 「小さな小さな産総研地域センターの連携戦略」

国立研究開発法人産業技術総合研究所
北陸デジタルものづくりセンター 所長 芦田極氏

コメンテーター
(一財)機械振興協会 技術研究所 所長 西本淳哉

モデレーター
(一財)機械振興協会 経済研究所 特任研究主幹
武蔵野大学国際総合研究所 客員教授 中島一郎氏

発表要旨は裏面より ➡

お問い合わせ先 機械振興協会 経済研究所 企画管理室 E-mail: info@eri.jspmi.or.jp

発表要旨

「違いを楽しみ活かしながら、人や組織に変化を起こす仕組みと仕掛け」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 製造基盤技術研究部門 招へい研究員 手塚明 氏

昨今の時代の急激な流れより、DX、SDGs、ビジネス再構築、ブランディング等の「変化」が求められています。「変化」の時期には意見や立場の多様性や違いを活かすことが重要とされていますが、現実には、立場や意識の違いにより、納得感が形成出来ず、「変化」に至らないケースも目にします。

これに対して、[対話や共感が重要]、[コーチングやリーダーシップが有効]、[そのためのスキルを磨く]等と啓蒙書には書かれていますが、現実には[上下関係等の力学の中での対話は難しい]、[コーチングやリーダーシップ等のスキルを学んでも相手や組織は変わらない]等の壁にぶち当たります。

ここでは、課題や根っ子の原因を整理しながら、若手とベテラン、企画と実施、経営層と現場、地域と中央等の認識の違いを楽しみ、活かす方法論の一つを軽くご紹介します。違いを活かすには、心理的安全性とフラットな対話の雰囲気作りが重要ですが、言うは易く行うは難し、であり、明日から役立つヒントを幾つか、提案します。違いを楽しみ活かしながら、人や組織に変化を起こすことなんて出来るのかと思われる方、是非、ご参加ください。

「小さな小さな産総研地域センターの連携戦略」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 北陸デジタルものづくりセンター 所長 芦田極 氏

北陸デジタルものづくりセンターは、令和5年5月に産総研12番目の研究拠点として福井県坂井市に開所した。北陸地域で盛んな金属加工業や繊維産業を背景に、わずか5名の研究員が金属3Dプリンタ及びスマートテキスタイルをテーマとしたデジタルものづくり研究に取り組んでいる。この小さな地域拠点が、1年目にふくい桜マラソンでのDX実証実験を実施し、わずか2年足らずで産総研最大級の大企業との大型共同研究、冠ラボの設立に至った。地元福井県、公設試との強固な結束と、オール産総研ネットワークの連携ハブとしての機能が、これまでに無いユニークな連携戦略であり、ベストな研究体制の構築につながっている。

受講票は発行いたしません。

受講時にご使用していただく資料およびWEB会議参加証は前日までにメールにてお送り致します。

なお、ご提供頂く個人情報は、当協会セミナー、講演会及び展示会関連等以外に使用致しません。

WEB会議中の画面録画や録画した映像の転載は禁止させていただきます。